

## 地域の会前回定例会以降の動き

令和4年8月3日

新潟県防災局原子力安全対策課

### 1 安全協定に基づく状況確認

7月8日、柏崎市、刈羽村とともに、発電所の状況確認を実施しました。

〔主な確認内容〕

- 2号機換気空調補機非常用冷凍機について、現場確認を行いました。
- ケーブル洞道内火災（2018年に発生）について、再発防止対策の説明を受けるとともに、現場確認を行いました。

### 2 緊急時モニタリング個別実動訓練

7月29日、緊急時モニタリング個別実動訓練を実施しました。

訓練では、防護服内に冷却ベストを着用するなどの熱中症対策を行ったうえで、環境試料（飲料水、土壌）の採取、可搬型モニタリングポストの設置、モニタリング車による放射線量の測定などを実施しました。また、今年度は採取した環境試料の前処理や核種分析、汚染検査の方法の確認にも重点を置き、訓練を行いました。

〔参加機関〕

新潟県、柏崎刈羽原子力規制事務所、東京電力HD（株）



令和4年8月3日  
新 潟 県

## 「地域の会」委員質問への回答

〈宮崎委員〉

### （新潟県に対する質問）

原子力災害時避難に関わる重要なシュミレーションを聞かせてもらいました。私はこれでは、「実効性のある避難計画」はできないと確信しました。でも、県はこの報告が3月に入手しましたが、いまだにこれに基づく避難計画の見直しをしているという話は聞いていません。そこでいくつかの質問をします。

質問1. 再度のシュミレーションはありますか。

今回は30km圏離脱時間を図るものでしたが、避難所はその先です。車列は続きます。避難所に到着するまでのシュミレーションを是非してほしいと思います。県民に原子力災害時の避難というのは大変厳しいものだというイメージを持たせてほしいと思います。

質問2. 避難のイメージを「ピクニック型」から「移住型」にすべきではありませんか。

30km圏脱出まで約14時間です。半日以上車中で暮らすということです。さらに避難所までを考えるとどこかで就寝時間をとることになります。県は自家用車の台数を減らすため近隣住民の「乗り合い」を勧めています・市のガイドブックにはリュックの重量を10kg以下にしましょうなどとなっていますが、これは住民に「ピクニック型」のイメージを持たせることになります。避難中に寝起きを伴うわけですから、自然災害編に非常持出品や備蓄品に指定されているテント、寝袋、固形燃料、鍋、包丁、ポリタンク等々「移住」覚悟の避難行動をするよう住民に伝えるべきと考えます。乗り合いで、隣人家族の持出品など積み込む余裕はないと思います。まさに、移住に供えて1家族、すべての乗り物を動員して、家財道具を運び出す「移住型」の避難をイメージするよう住民に伝えるべきです。その考え、見直しをしませんか。

質問3. シュミレーションに近い状況での避難訓練はいつ行われますか。

県は、訓練を通して計画を改善し、実効性を高めると言っています。しかし、広域避難の難しさを検証する訓練は行われたことはありません。全住民、全車両参加の訓練とは言いません。可能な限りの人と車で14時間かけた訓練をしてください。1分で、スクリーニングができるのか模擬訓練をしてください。これまで通り、手ぶらの人をバスで避難経路所まで運ぶ訓練はやめて、有事に近い訓練をして改善点を抽出してこそ計画が改善されるというものです。

## 回 答

回答1. 今回の調査は、市町村の避難計画に示されている主な避難経路を利用して

自動車で避難先まで避難した場合に、どのような場所で渋滞が発生するかを把握し、より円滑に避難するための対策を検討するため、実施したものです。

まずは、調査で抽出された課題にしっかりと対応していきたいと考えておりますが、今後、避難計画の実効性を高める取組の中で、シミュレーションについて課題解決のため必要と判断した際は、国、市町村、関係機関と具体的な方法を検討、調整の上、実施したいと考えております。

回答 2. 原子力災害時避難経路障害要因調査結果では、PAZ 避難者の 90%が原発から 30km まで避難するために要する時間として 13 時間 40 分と記載されていますが、今回の調査は、あくまで原子力災害時の避難経路において、どのような場所で渋滞が発生するかを把握し、より円滑に避難するための対策を検討することを目的としており、「住民が一斉に避難開始する」など交通に強い負荷をかけシミュレーションを行っていることから、実際の避難に要する時間とは異なります。

県としては、避難がより円滑に行えるよう、調査結果を踏まえ、分散避難の実施やスクリーニングポイント候補地の追加などについて、国、市町村及び関係機関と連携して検討するとともに、住民避難時の混乱を最小限に留めるため、原子力防災訓練を繰り返し実施し、スクリーニングの円滑な実施など原子力災害時の対応力向上を図ってまいります。

なお、避難先までの移動中、滞在時間が長時間に及ぶような場合には、国や自衛隊等の実動組織と連携して対応したいと考えております。

また、住民の皆様においても、災害時には迅速に避難することを念頭に、まずはお住まいの市町村の防災ガイドブックに記された範囲を基本に平時から必要な準備をしていただきたいと考えており、それ以外の物品等については、基本的に受入先の避難所において対応することとしており、県としても不足する物品の確保等について、国や関係機関と連携し支援してまいります。

回答 3. 今回の調査では、避難経路上の渋滞箇所を特定しやすくなるよう、交通に強い負荷をかけているため、実際の避難にかかる時間などとは異なることから、結果をそのまま訓練に当てはめて実施することは考えておりません。

一方、住民の方に手荷物や非常用持出品を持参いただくなど、実際の避難時の対応や手順を想定して訓練することは有意義と考えますので、今後の訓練実施に当たり参考にさせていただきたいと考えております。

県としましては、今後とも市町村などとも連携して内容を検討しながら、継続的に訓練を実施することで、原子力災害時における対応力の向上を図るとともに、避難における課題の抽出を行ってまいりたいと考えております。

令和4年8月3日  
新潟県

## 「地域の会」委員質問への回答

〈竹内委員〉

(新潟県に対する質問)

○新潟県への意見

1. 阻害要因調査の想定で、地震では「中越沖地震において短時間であっても通行止めになった区間すべてを通行不可区間に設定」しているのに、積雪では「除雪は避難準備時間内に既に完了」としています。少なくともPAZの即時避難を求められる地域では、避難準備時間内に除雪を完了させることは不可能であり、「国道8号線の曾地峠や生活道路の除雪は終わっていない」という想定で阻害要因調査を行う必要があるのではないのでしょうか（意見）
2. 阻害要因調査から分かった問題点を、県の避難計画自体に今後どのように反映させていく予定なのかを教えてください。（質問）

**回 答** 今回の調査は、市町村の避難計画に示されている主な避難経路を利用して自動車避難先まで避難した場合に、どのような場所で渋滞が発生するかを把握し、より円滑に避難するための対策を検討するため、実施したものです。  
このため、まずは調査で抽出された課題を踏まえ、分散避難の実施やスクリーニングポイント候補地の追加などについて、国、市町村及び関係機関と連携して検討するとともに、住民避難時の混乱を最小限に留めるため、原子力防災訓練を繰り返し実施し、スクリーニングの円滑な実施など原子力災害時の対応力向上を図るなど、避難計画の実効性向上に努めていきたいと考えております。